

＜小学校 学級経営＞

望ましい人間関係を育てる学級経営
—— 心の通い合う学級づくりの工夫を通して ——

糸満市立光洋小学校教諭 金城 千秋

目 次

I	テーマ設定の理由	51
II	研究仮説	51
III	研究の全体構想図	52
IV	研究内容	53
1	学級経営についての理論	53
(1)	学級経営の意義	53
(2)	学級経営の内容	53
(3)	望ましい学級集団について	53
(4)	学級経営における教師の役割	56
2	学級づくりの工夫	56
(1)	心をつかむ児童理解	56
(2)	父母との連携	57
(3)	学級経営案の工夫・改善について	57
V	授業実践について	59
1	検証授業との関連した取り組み	59
(1)	グループ編成の工夫	59
(2)	役割分担	59
(3)	教え合うような場の工夫	59
(4)	児童の声の生かし方	59
2	本時の指導計画	59
(1)	単元名	59
(2)	本時の指導目標	59
(3)	授業の仮説	59
3	検証の考察	60
(1)	グループ編成	60
(2)	主なグループの様子	60
(3)	抽出児の変容	60
(4)	授業仮説について	60
VI	研究の成果と今後の課題	60

＜小学校 学級経営＞

望ましい人間関係を育てる学級経営

—— 心の通い合う学級づくりの工夫を通して ——

糸満市立光洋小学校教諭 金城 千秋

I テーマ設定の理由

学校教育において学級は教育活動の基盤となるものであり、子ども達はこの集団の中で活動し伸びていく。望ましい学級集団の中では、意欲的に活動し生き生きと学校生活を楽しむことができる。

ところが年々、学校に行きたくないという子ども達が増えてきている。平成9年度の文部省基本調査によると、不登校の児童生徒は、小学校20,754人、中学校84,464人と10万人を越えている。不登校の原因はいろいろあるが、学級の仲間との人間関係がうまくいっていないこともその一つとして考えられる。人間関係がうまくいっている学級では、仲間意識が高くその集団に所属していることに喜びを感じ、さまざまな教育活動においても生き生きと活動を行うことができる。そこで、一人ひとりの子どものもつ可能性を引き出し、それを集団の中でどのように伸ばしていくかが、学級担任の役目であり学級経営に課せられた大きな役割である。

これまで、「学級経営案を作成し、児童がお互いのよさを認め合い励まし合いながら、楽しく学び合えるような学級づくり」を心がけてきた。具体的な実践として毎日の日記指導や触れ合いを通して、児童理解に努めたり、学級通信で個々の児童を取り上げて子どもの姿やよさを紹介したりすることが、信頼関係を築くことにつながっていた。係りや当番活動など学級組織も表面的には整ってまとまりのある学級であったように思えた。

しかし、40名近くの児童と毎日接していく中で「子ども達と担任はどのようにかわりあってきたのか」「児童どうしは、うまくかわりあっていたか」「授業や会話の中で、心の通い合う活動がなされていたか」と問われると自信を持って答えることができない。さらに、学年が進むとごく親しい仲良しの友達とだけでしか関わりを持つことができない児童、他の者を寄せつけようとせず、友達の枠が狭いグループも出て来たりする。また、うまく仲間をつくれずに一人行動をしている児童もいる。いろいろな面から指導の手だてをあれこれとやってみたが、みんなが楽しい学校生活を過ごしているとは言えないと思われる。

要因の一つとして、担任の児童理解の方法や資料の活用の仕方、心を育てる学級経営の在り方が不十分だったと考えられる。特にこれまでの「教師による子ども理解」重視的な考え方にかたよっていて「子どもから見た教師」（教師の指導力）的な面について自己を反省する機会がなかったように思う。このようなことから、自己の指導力を振り返りながら学級経営の工夫と改善を行う必要性を感じた。

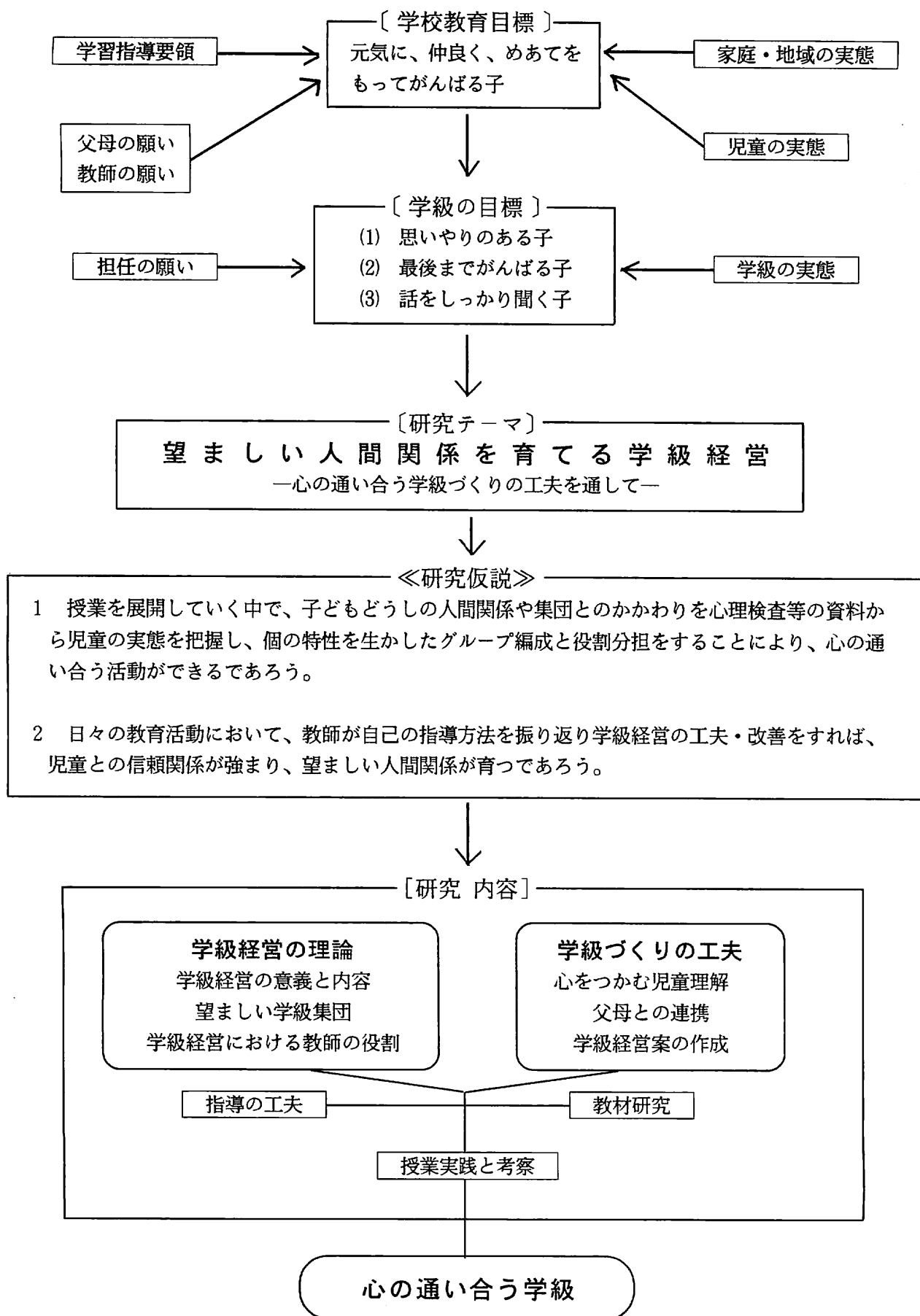
そこで、学級集団の把握や集団づくりへの理解のしかた、個へのかかわり方をこれまでの実践を振り返り、学級経営の立場から理論的に深めていくことで、心の通い合う授業の展開、見通しを立てた学級経営案の作成、父母との連携の持ち方等、具体的な手だてや場の設定の在り方を研究していきたい。

個の特性を生かした、心の通い合う学級づくりの工夫をすることによって、より充実した学級経営を実践していきたいと考え本テーマを設定した。

II 研究仮説

- 1 授業を展開していく中で、子どもどうしの人間関係や集団とのかかわりを心理検査等の資料から児童の実態を把握し、個の特性を生かしたグループ編成と役割分担をすることにより、心の通い合う活動ができるであろう。
- 2 日々の教育活動において、教師が自己の指導方法を振り返り学級経営の工夫・改善をすれば、児童との信頼関係が強まり、望ましい人間関係が育つであろう。

Ⅲ 研究の全体構想図



IV 研究内容

1 学級経営についての理論

(1) 学級経営の意義

学級経営(classroom or class management)とは、教育活動を効果的に展開していけるように必要な条件整備を行うことで、学級を単なる集団からまとまりのある集団へ育てていくための、担任が行う意図的・計画的な教育的配慮のすべてをさす。学習集団、生活集団の場として豊かな人間性を形成していくことが学級経営の意義である。

(2) 学級経営の内容

なぜ授業のやりやすい学級、やりにくい学級、明るい元気のある学級、反応のあまりよくない学級等と学級差がでるのか？

学級は一つの集団ではあるが、個人である児童一人ひとりの集まりとして構成されている。個人の働きで学級全体が高まり、個人は集団の中で関わり合いを通して、人間関係が育成される。このように見ると、学級が学校教育の中核をなしている事から、学級づくりの重要性が認識される。

具体的活動領域として下記のように分ける事ができる。(『学級経営の基礎・基本』下村哲夫)

- ①教育課程の経営・・・学習指導、生徒指導を含めた教育活動の計画的な体系
- ②人的環境の整備・・・「学級づくり」とも言われ、望ましい人間関係、学級集団の育成
- ③物的の整備・・・「教室経営」とも呼ばれる。教室の環境を学習が進めやすく整える
- ④事務的諸活動・・・学級費の管理、学級通信の発行、学級事務

〈経営過程〉 計画(plan)→実施(do)→評価(see)

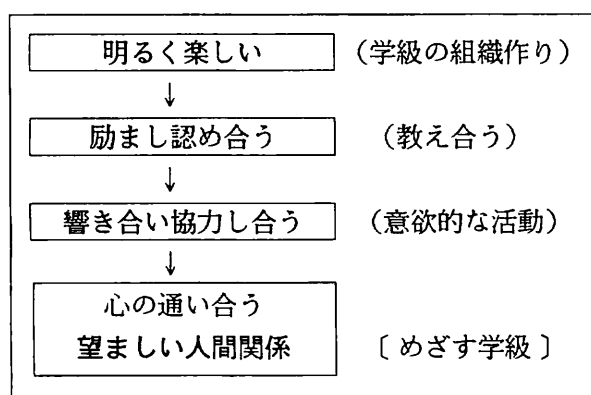
P－D－S(計画－実施－評価)というマネジメントサイクルは、学級経営の効果上不可欠である。

P(計画)については、学級の教育目標を立てるだけでなく、その実現に向けて上記の①～④の活動を具体的に学級経営案に明示しておく事で、より見通しを持った学級づくりができる。

S(評価)は、このPとそれにもとづくD(実施)によって、目標がどれだけ達成されたかを見ることにより、次年度の学級経営の改善につなげられる。

(3) 望ましい学級集団について

図1(集団づくりの例)



① 学級集団づくり

学級にはいろいろな個性や特徴を持った子ども達がいる。4月にスタートした学級に目標を持たせ生き生きとした集団に育て上げていくことが、学級経営における担任としての役割である。

図1のように、個々の児童が学級の一員として互いに励まし合うように意識させ、教師がかかわりながら児童の実態を踏まえて段階的な心の通い合う人間関係づくりをめざして学級経営をしていきたい。(図①)

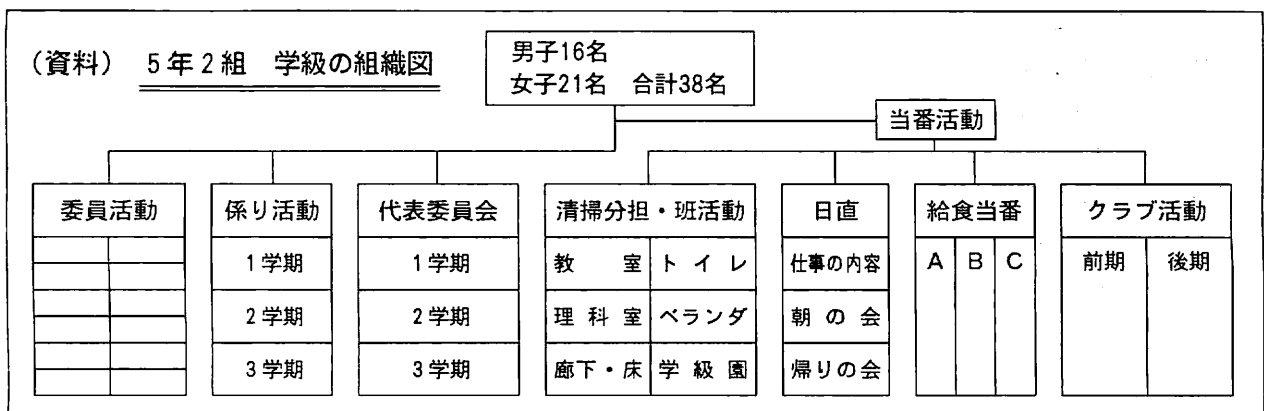
② 学級における人間関係

学級集団は、集団の内部構造(児童・生徒の側から)ヨコの関係と集団の機能(教師の側から)タテの関係に視点を置いて捉えることができる。

ア 集団の内部構造・・・児童・生徒の側からの視点(ヨコの関係)

(ア) 組織関係(役割分担)

学級集団に、その目標を達成させるための共通理解を持たせ、組織をつくり個々の児童が役割を分担して行うことにより、集団活動がスムーズに進められる。資料1(次ページ)に示したように組織図を掲示しておく、誰がどの係りや当番なのかがわかり、児童も責任を持って活動に取り組める。



(イ) コミュニケーション関係(人間関係)

集団が活動すれば、自然に児童どうしの人間関係が結ばれていく。このコミュニケーションの流れがうまくいかなくなると、集団の機能に障害が生じそれにつれて組織も悪化する。

(ウ) 心理関係(ソシオメトリック関係)

新しく編成された学級集団では、児童間の人間的な結びつき(心理的結合)は弱い。

しかし、学期が進み集団活動を経験していく中で、児童どうしに心理的な密接な関係や反発関係が発生し、その学級特有の雰囲気が生じてくる。これが心理関係である。

*この三つは、相互に絡み合い、影響し合って、プラスに働くとき、望ましい集団として発達する。

集団の内部構造から望ましい学級集団を定義すると・・・

『学級内にいじめや不和がなくまとまりがあり、児童一人ひとりが心理的に安定し、相互によい関係が結ばれている。楽しい雰囲気の中で児童は知識と技能を学び合う事ができ、それぞれの活動内容(役割分担)が明確で、意欲的に活動している学級。』と言える。

イ 集団の機能(役割)・・・教師側からの視点 (タテの関係)

(ア) 教化と感化

教化・・・教師が指導目的に沿って意図的に、教科指導や生活指導を行うこと。

感化・・・教師の言動が無意図的に児童に及ぼす影響のことで、モデリング効果ともいわれる。

学級の児童のしぐさや字形が、担任に似てくるのもその一例である。

(イ) 教師期待(ピグマリオン)効果

教師が学級の児童に対して持つ期待どおりに、変わっていく教育効果のこと。

例えば、担任が無意識に「この子は伸びる」という期待をかけると、実際にその児童の成績が上昇する現象が報告されている。(「学校の間人間関係読本」杉原一昭)

(ウ) リーダーとしての教師

三隅二不二(1984年)による「PM式リーダーシップ論」リーダー(指導)としての教師の役割である。児童が担任をどのように捉えているかを測定する、児童から見た教師の評価である。教師自身の在り方や指導法の見直しに役立てることができる。『学級経営の方向は今のやり方でいいのか?』と疑問に思うことがある。自分なりに項目をあげて反省をすることも大切であるが、客観的な資料をもとに学級の児童による評価で経営の反省をし、具体的な工夫改善を行うことも、一つの方法として取り入れていきたい。リーダーシップP項目とリーダーシップM項目、それぞれ10の質問に対して5段階で答えた平均で基準が作成されている。

リーダーシップP・・・課題達成(Performance)を重視するもので、学習・生活指導で子どもを方向づけ、課題達成の効率をあげるように指導する。

リーダーシップM・・・学級集団の維持(Maintenance)を重視し、学級の人間関係に留意して困っている子どもには特別な配慮をしてあげられるような教師の行動である。

個々の教師がリーダーシップP行動とリーダーシップM行動をどの程度行っているかによって、4類型化をしている。(図2)

〈P-M4類型〉

P M型→PもMも強いリーダーシップ行動型

P 型→課題志向型・教師中心指導型

指示・命令・司令が多く圧力的なタイプ

M 型→学童配慮型

個人的な感情や仲間関係に気を配るやさしいタイプ

P m型→放任型

教えることも型通りで熱心でなく、児童に対する配慮が欠けている。

リ ー ダ ー シ ッ プ	強	M型	P M型
	↑		
弱		P m型	P 型

M 弱 → 強
リーダーシップP

図2 〈P-M4類型〉

表1 〈教師のリーダーシップ測定質問項目〉

P項目

- ①あなたの先生は、勉強道具などを忘れたとき注意しますか。
- ②あなたの先生は、名札ハンカチなど細かいことに注意されますか。
- ③あなたの先生は、きまりを守ることにきびしく言われますか。
- ④あなたの先生は、家庭学習（宿題）をきちんとするようにきびしく言われますか。
- ⑤あなたの先生は、物を大切に使うように言われますか。
- ⑥あなたの先生は、机の中の整理やカバンの中身の整理、帽子の置き方などを注意しますか。
- ⑦あなたの先生は、分からないことを人に尋ねたり自分で調べたりするように言われますか。
- ⑧あなたの先生は、学級のみんなが仲良くするように言われますか。
- ⑨あなたの先生は、忘れ物をしないように注意されますか。
- ⑩あなたの先生は、自分の考えをはっきり言うように言われますか。

M項目

- ①あなたの先生は、みんなと遊んでくださいますか。
- ②あなたの先生は、「えこひいき」しないでみんなを同じようにあつかわれますか。
- ③あなたの先生は、勉強がよく分かるように説明されますか。
- ④あなたの先生は、何か困ったことがあるとき相談にのって下さいますか。
- ⑤あなたの先生は、学習中机の間を回って一人ひとりに教えて下さいますか。
- ⑥あなたの先生は、あなたが話したいことを聞いて下さいますか。
- ⑦あなたの先生は、勉強の仕方がよく分かるように教えて下さいますか。
- ⑧あなたの先生は、あなたが間違えたことをしたときすぐしからなくてなぜそうしたかを聞いて下さいますか。
- ⑨あなたの先生は、あなたの気持ちを分かって下さいますか。
- ⑩あなたの先生は、みんなと同じ気持ちになって、何でもいっしょに考えて下さいますか。

研究の仮説2として「日々の教育活動において、教師が自己の指導方法を振り返り学級経営の工夫・改善をすれば児童との信頼関係が強まり、望ましい人間関係が育つであろう。」と立てた。児童の担任に対する認識を学級経営に生かしたいと考え、表1の資料を利用し、リーダーシップ評価を行った。その結果を平均でまとめた。（表2）

さらに、平成3年6月～7月に集団調査された島尻教育事務所管内小学校5・6年68学級（2,324名）のP得点平均 38.13点とM得点平均 36.17点を基準に4類型を行ったところ、図3のようにPM型を示した。

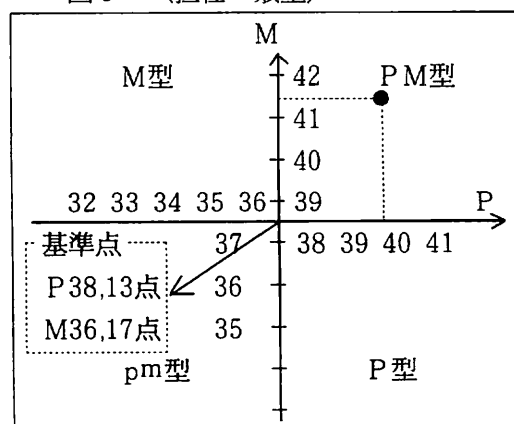
細かく分析してみるとP項目の中では、質問④の「家庭学習をきちんとするように言われますか。」が低いので課題に対しては、厳しく指導することも学級集団には必要であると考え、提出できるような課題の与え方や出せない理由等に配慮することで出せるようになり、出した事へ対して「〇〇さんが、出してくれてうれしかったです。」と係りからのお知らせで、みんなから拍手をもらったことをきっかけに続けて出せるようになった児童がいた。教師の指導力も大切ではあるが、個を育てるためには、子ども同士の影響も大きいので、学級集団の力を生かした学級づくりをしていく必要性を感じた。また、M項目では質問①「みんなと遊んで下さいますか。」の得点が高かった。「忙しい」という理由から時間と心に

表2 〈児童による測定の平均点〉

	P得点	M得点
男子平均	42.0	38.9
女子平均	40.5	40.3
全 体	41.2	39.8

（平成10年6月24日 実施）

図3 〈担任の類型〉



ゆとりがなく、かかわりを持つ機会を逃してしまっていたことを反省し、さっそく休み時間や休憩時間に行っていたノート点検等を放課後に回しいっしょに遊ぶように心がけた。児童の授業では見えなかった表情や会話が出来る事で担任も楽しくなり、学級全体が明るい雰囲気と授業への意欲が見られ「励まし認め合おう」とするまとまりにつながった。PM式リーダーシップ評定を行うことにより担任はやっているつもりでも、児童からすると「不十分である」という評価になっている項目を見つける事ができる。教師が自己の指導方法を振り返り、学級経営上の改善をしていく大切さを改めて感じた。

(4) 学級経営における教師の役割

- 学校教育目標の具現化 ⇒学校が目指す児童像をどう実現するか。
- 学力の定着 ⇒わかる授業と個に応じた指導をどう工夫するか。
- 学級の実態調査と児童理解 ⇒一人ひとりの児童をどう深めていくか。
- 「学校が楽しい」児童の育成⇒生き生きとした児童をどう育てるか。
- 集団活動に積極的にかかわる⇒誇りの持てる学級づくりをどう進めるか。
- 学級経営案の実践化と充実 ⇒日々の反省・同僚や先輩の指導助言どう生かしていくか。
- 父母との連携の持ち方 ⇒父母の意見・家庭、地域との協力をどう持つか。

2 学級づくりの工夫

(1) 心をつかむ児童理解

① 実態の把握

学級の中には、目には見えないが児童間にある雰囲気が大きく影響を与えている。

子どもどうしの人間関係や集団とのかかわりを担任がきちんと把握しておくことは、学級経営を行う上で一人ひとりの児童理解につながり個々の成長に役立てることができる。また、教師にとっては指導の見通しが立てられる所にその意義がある。

② 学級実態調査の種類とその活用

交友関係の実態調査は、学級経営に効果的に生かせるよう時期やねらいを持って実施し、活用できるようにする事を目的に行なわれる。研究仮説1の「授業を展開していく中で、子どもどうしの人間関係や集団とのかかわりを心理検査等から児童の実態を把握し、特性を生かしたグループ編成と役割分担をすることにより、心の通い合う活動ができるであろう。」という学級集団の人間関係を客観的に把握する観点から『ゲス・フー・テスト』と『ソシオメトリック・テスト』で、調査をした。

【ゲス・フー・テスト】

実施の目的・・・友人関係に於ける児童相互のとらえ方を知り、グループ編成や個別指導の資料に活用し、学級の特徴をつかむ。

実施上の配慮・・・反対の人の項目については、質問紙から削除してアンケートを実施した。

【ソシオメトリック・テスト】

実施の目的・・・学級の凝集性やまとまり、グループ内で孤立している子どもがいないか、クラス内にどんなサブグループ(小集団)ができているかなどを見ることができる。

③ 検査結果の分析

・学級集団の構成については、調査結果から4つの小集団に分かれていることが分かる。

下位集団について、第1下位集団 男子14人、女子10人で構成され男女合わせて24人の大きな集団にまとまっていて、数値的にも相互選択数が40と高く、親和的傾向にある集団といえる。

・男子は、周辺児と孤立児の3人が、第1下位集団の中に入れない。

集団から孤立している児童がいるといろいろな面で問題が出てくるので、孤立児をどのようにして学級のみんなから認めさせていくかが、学級経営上の大きな課題となる。

・女子は、小さな3つの集団があり、それぞれの下位集団内の連結が強く、相互選択である。高学年女子の特徴である「仲良しグループ」と呼ばれる仲間の発生を表している。

・人気児がみんなから信頼されているまじめな子であるとは言えない。

④ 学級の特性

伸ばしていきたい所	課題として改善したい所
- よく笑う明るいクラスである。 - 男女の仲が比較的よい - 係りや当番活動の組織が整っている。 - 不登校傾向の児童はいない。 - 男子は明るく元気があり休み時間は、活発に動いて遊んでいる。 - 女子はおとなしいが当番活動や係り活動をきちんとすることができる。 - お互いのよさを男女関係なく認め合える。	- 女子の中に仲良しグループがいくつかある。 - 活動が活発でないのは役割分担がきちんとしていないため、話し合わせる必要がある。 - 遊びのグループに偏りがある。 - グループ学習や班編成をしていく上で、ごく親しい友達としか組みながらいない児童や孤立してしまいがちな子がいるので、グループ編成の難しさを感じることもある。 - 担任への厳しさを要求している。 - 休み時間には、担任は児童と出来るだけかかわって遊ぶようにする。

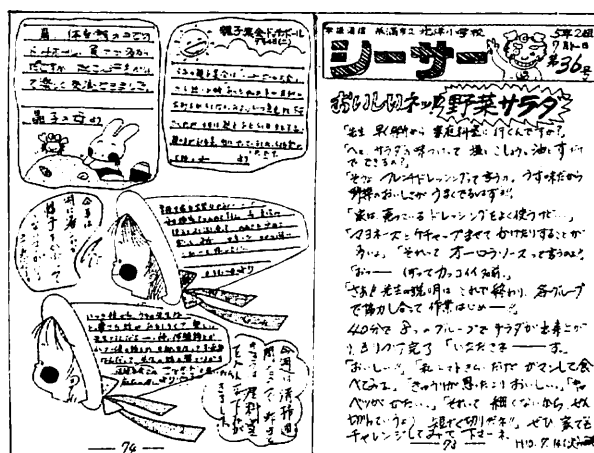
* 検査結果の分析と学級の特性、学級集団の人間関係を考慮したグループ編成を授業実践に生かしたい。

(2) 父母との連携

社会の変化と共に、父母の考え方も多様化し、学校や教師に対する期待も次第に高まってきている。こうした中で、児童を中心として親と教師が連携していくことは教育の効果を上げていく上で重要であり、互いに協力し信頼関係をあらゆる機会を通して積み上げていけるようにしたい。

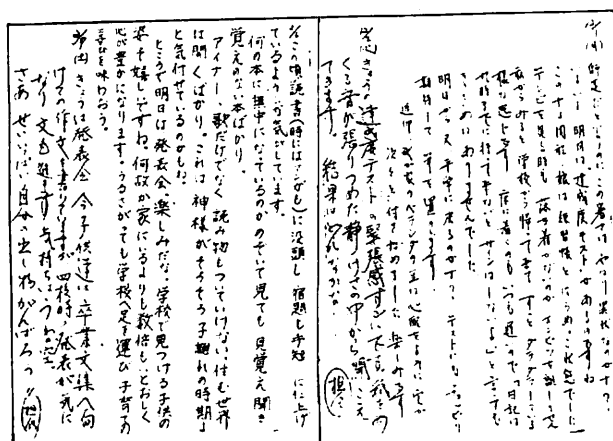
〈連携の方法〉

- 学級PTAや懇談会を通して児童の様子や課題等を出し合い、理解や解決の方法を話し合う。
- 保護者が参加したくなる授業参観や学級PTAの持ち方の工夫。
- 家庭訪問や電話、手紙等を通じて児童の変容についての情報交換を行う。
- 児童の成長の姿や学級の様子が伝えられるような、学級通信の工夫をする。



資料2 学級通信の例

- 行事や参観日等の父母の感想を書いてもらい学級通信に載せたり、家庭ノート「かけはし」を回したりすることで学校と家庭だけでなく、保護者間の情報交換にもつなげたい。
- 地域やPTA主催の行事にはできるだけ参加し児童や父母とかかわりを持てるようにする。



資料3 家庭ノート「かけはし」の例

(3) 学級経営案工夫・改善について

① 計画の視点

- どのような学級にしたいのか？
- 学習指導の工夫・改善のポイントは？
- 生徒指導上の問題は？
- 学習環境は整備されているか？
- 担任ができることは何なのか？
- 子どもどうしの人間関係は？
- 児童と担任のかかわり合いは？

等の課題をもとに計画(P)・実践(D)しさらに評価(S)することで、経営のよし悪しの原因を見つけ出すことができる。学級の目標が具体的に表わされていると、ただ飾りの目標ではな児童の活動が促進され、効果的な学級経営につなげていける。

② 年間の見通し

学期	心の通い合う学級づくりの目標	指導のポイント
1学期	明るく楽しい学級	学級開きで楽しいやる気の出る雰囲気作りと学習の約束や集団ルールの確認と定着
2学期	励まし認め合う学級	授業や行事の中で意見を交わしアイディアを出し教え合い励まし合いのある場づくり
3学期	響き合い協力し合う学級	思いやりやチームワークの大切さを意識した指導と満足感がある活動の取り組み

③ 心の通い合いを生かした経営案

平成10年度		学級経営案	5年2組 金城千秋
学級の目標		学級経営方針（学級づくりの中心となる具体的な目標）	
(1) 話をしっかり聞く子	(2) 最後までがんばる子	- 心の通い合う授業展開の工夫・改善に努め、基本的な学習態度の定着を図る。 - 心の通い合う活動をするための話し合いや協力の場、役割分担の仕方を配慮する。 - 心の通い合う友達関係づくりに生かせる児童の特性や学級集団の人間関係をつかむ。	
心の通い合う学級 五年二組 話をしっかり聞く子（授業） - 学習の約束やきまりをしっかりと守る。 - 話している人を向いて、目で耳で心でしっかりと聞く。 - 大事なことはメモをする。 - 分からないときや質問などは尋ねて理解する。 - 疑問点などは、すぐ調べられるように辞書をそばに置いておく。 - 友達の発表のよさを認めてあげることができる。 - お互いの考えに対して意見がちゃんと見えるようにする。 最後までがんばる子（活動） - めあてを持って、楽しくできる係りを話し合って決める。 - 自分の責任をもってできる役割を相談して決める。 - みんなで励まし合って取り組む。 - 途中で投げ出さないように励まし合う。 思いやりのある子（友人関係） 「ありがとう」がきちんと見えるようにする。 - 困っている子に手助けや声かけができる。 - いじめや仲間はずれの芽を出させない。		心を通い合わせるための場づくりの工夫と方法	
		登校から朝の活動	- 笑顔で「おはようの」あいさつを交わす - 児童と共に朝の活動をしながらかしを交わす - 前日の欠席者には、健康状態を尋ねて今日の体調をつかむ
		朝の会	- 一人ひとりの名前を呼んで出席を取りながら健康状態を観察する - 歌やゲームなどの係りを中心とした楽しくやる気につながるような雰囲気作りをする - 日程確認をきちんとして、児童の興味のある話やニュース出来事に触れ視野を広げさせる - 説教をしたり、注意などの話題は避けて楽しい一日のスタートにする
		授業の中で	- 児童の活動の場や教え合いをできるだけ多く取り入れるようにする - お互いの考えを認め合えるような雰囲気づくりをする - 理解の遅い児童やつまづきのある児童には個別指導を行う - 児童の声が生かせるような授業展開の工夫をする
		休み時間	- 次の授業準備がスムーズにできるような声かけをする - できるだけどの子とも公平遊びを通して触れ合えるようにする - 友人関係に気をつけながら、様子を見る
重点実践事項・方法		児童理解	
児童理解	一人ひとりの学力や知能を適切に把握する。	学習指導	- 一人ひとりの学力や知能を適切に把握する。 - 特長や特性をしっかりとつかむ。 - 身体発達上、健康上の問題を把握する。 - 問題行動に対して積極的に取り組む。 - 個々のよさや頑張った事をメモし指導に生かす・どの子にも公平に言葉かけや触れ合いを持つ。
	係りや当番活動の活性化の工夫		- 係りや当番活動の活性化の工夫 - 認め合い励まし合う学級の雰囲気づくり - 特性を生かしたリーダーの育成 - 話し合いを生かした適切な役割分担の手だて - 男女対立をせず、協力してとりくませる。 - 独立している児童への配慮
集団の経営	認め合い励まし合う学級の雰囲気づくり	教室環境	- 教具や資料を整理しすぐに使えるようにしておく。 - 教室内の整備・美化に心がける。 - 児童の作品を計画的にどの子も公平に展示する。 - 児童と担任のアイディアを生かした活動の場にする。
	話し合いを生かした適切な役割分担の手だて		- 連絡の方法や内容はわかりやすく適切に行う。 - 進んで学級に協力してもらう。 - 保護者会に参加したくなるような工夫をする。 - 個々のよさや個性が出るような読みやすい内容にする。
学級事務	計画的な事務処理への配慮	家庭との連携	- 連絡の方法や内容はわかりやすく適切に行う。 - 進んで学級に協力してもらう。 - 保護者会に参加したくなるような工夫をする。 - 個々のよさや個性が出るような読みやすい内容にする。
	素早くできるような工夫をする		- 連絡の方法や内容はわかりやすく適切に行う。 - 進んで学級に協力してもらう。 - 保護者会に参加したくなるような工夫をする。 - 個々のよさや個性が出るような読みやすい内容にする。
		給食時間	- 給食の準備が素早くできるように、一緒に活動する - 当番や準備を手伝ってくれた児童へ「ありがとう」と感謝の気持ちを表す - 残さず食べた児童や嫌いなメニューが食べられるようになった児童を励ます - 児童のグループに入って食事をしながら楽しい会話の機会にする
		清掃時間	- 楽しく清掃活動をしながらかしすることの大切さを感じさせる - 責任をもって分担された所を頑張った児童を賞賛する
		帰りの会	「係からの連絡」を活発にし責任感を持たせる - 楽しかった事やよかったことなどを発表させて満足感を持たせる - 今日の出来事からすばらしい場面や行動、言葉を見つけて明日へのやる気につながる
		放課後	- 時間のとれるときは児童と遊んだり会話を通して触れ合えるようにする - 残って手伝いをしてくれる児童と会話しながら学級の活動をする
		その他	- お休みしている児童へは、友達のお手紙やメッセージを近くの児童に届けさせる - 自分のクラスだけではなく、他の学級や学年のよさを認め合う - 専科やクラブ、委員会活動などでお世話になっている先生方への感謝の気持ちを持たせる

④ 学級経営の評価

内 容	具体的項目	評価の視点	評価	反省
(1) 学級の目標	目標の具体化	具体化のための配慮は適切であったか		
	内容	児童の実態に即しているか		
	目標の実践	担任は意識して場の設定をして実践したか		
(2) 学級経営全般	方針	経営の方針や重点が具体的であったか		
	創意・工夫	経営上の創意・工夫は行われたか		
	経営案の活用	日々の実践に活用できる経営案であったか		

⑤ 評価の仕方

（以下省略）

- 評価基準の設定はせず、自らの基準によって評価する。点数やABC段階、○×でもよい。
- 学期ごとに評価することで、より児童の実態にあった形式的なものではない子どもの活動につながる経営案に近づけられる。

V 授業実践について

1 検証授業との関連した取り組み

(1) グループ編成の工夫

グループ編成の工夫をすることによって、児童は集団の中で仲間とかかわり合いを持ちながら、自分の力を伸ばし個性を磨いていくことができる。グループには、係り活動、生活・学習グループ等さまざまな形態がある。編成するときには発達段階に応じて、学習の内容、教材、ねらいによって人数やメンバーの組み合わせを工夫する。そのことがグループ学習の教育的効果を高くすることにつながる。

本授業の仮説として「心理検査の資料を活用し、個々の特性を生かしたグループ編成をして、楽しくソフトバレーボールをするためにはどうすればよいか話し合い、チームで協力して励まし教え合う活動をする事で、心の通い合う子が育つであろう」と立てた。ソシオメトリックとゲス・フー・テストの結果から児童の選択、排斥の関係をつかみ活動していく上での地位や役割を考慮して男女混成のグループ編成を行った。その結果、A君・B君が集団から排斥されていてI sss(Index of Sociometric Status Score)社会測定的地位指数が非常に低く、2人を問題傾向と見ることができるので、A君の入るグループのリーダーになるのはC君(学級でI sssが一番高く普段からA君と部活動でもかかわりが大きい)が適任だと判断した。本授業ではA君・B君・C君を抽出児として変容を見ることにした。

(2) 役割分担

小集団学習を進めるには、児童の人間関係やその子の持ち味、特性などを十分に考慮して編成し、活動に際しては、児童自身で解決の方法を話し合わせた上で取りかからせるように配慮することが大切である。活動がうまくいかないときには、助言や励ましをタイミング良く与え、担任が温かく見守ってあげることが、活動への意欲につながる。活動の過程の中で、自分がそのグループに必要とされていると感じられることで、自信を持ち成就感を味わうことができる。そのためには、それぞれの児童に役割を受け持たせ、どの児童がどのような役割を担っているのかを教師がしっかりと把握し、全員が積極的に参加できるような条件整備をすることも学級経営のポイントである。そこで、グループ編成後話し合いで役割分担をさせることが、責任や協力する気持ちにつながると思った。

(3) 教え合うような場の工夫

授業の流れの中で前半と後半の間に作戦タイムと練習の時間を設定することで、キャプテンやコーチが中心となってグループごとに教え合う場面が期待できる。さらに、試合の中でもミスや失敗に対して励ましの声かけができるよう、支援していくことが大切である。

(4) 児童の声の生かし方

1学期の授業後のアンケートから、ソフトバレーボールでいやだった理由として「ミスして笑われたとき」「ボールを回してくれないときがあった」という声がある。逆に楽しかった理由として「点が入ったらうれしかった」「1,2,3とうまく声かけしながらボールが返せたとき」と事前に知らせておいて、どうすればみんなが楽しくチームプレーにつながられるか気づかせたい。また、やっていくうちにルールや進め方などの不都合が出てくることがあるので、その都度授業終了後にキャプテン会を持った。みんなが楽しめるように児童の声を生かした特別ルールを取り入れた授業展開にした。

2 本時の指導計画

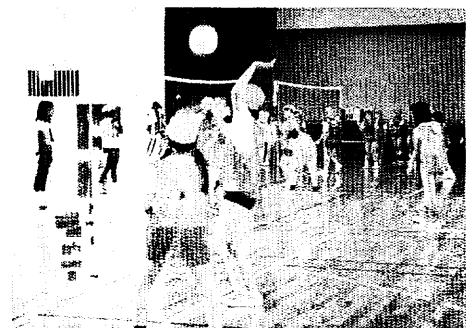
(1) 単元名 「ボール運動」 ソフトバレーボール

(2) 本時の指導目標

- ①お互いに教えあったりしながら、チームで心を通い合わせながらソフトバレーボールを楽しむことができる。
- ②役割分担した係りを個々の児童が責任を持ってはたし授業がスムーズに進められるように考え行動することができる。

(3) 授業の仮説

心理検査等の資料を活用し、個々の特性を生かしたグルー



〈ゲームを楽しむ〉

ブ編成をして、楽しくソフトバレーボールをするためにはどうすればよいか話し合い、チームで協力して励まし教えあう活動をすることで心の通い合う子が育つであろう。

3 検証の考察

(1) グループ編成

6つのグループ（男女混成6～7）に編成した。編成後のアンケートでは、「グループの協力があり楽しかった。」と答えている。その理由として①力がほぼ合っていた ②仲のよい友達がいる ③相談しながらできた等の意見があり、心理検査等の資料をもとにしたグループの編成方法として効果的であったと考える。

(2) 主なグループの様子

緑チーム・・・キャプテンを中心としていい影響を受け合いグループの人間関係がうまくいっている。

黄チーム・・・どの子も表情が明るくお互いの順番を確かめ合ったりして声かけをし合っていた。

青チーム・・・女子に相手のよさを認める行動や失敗に対して励ましの声かけがあった。

紫チーム・・・相手チームの失敗を喜んでいるのをキャプテンがさとしているような場面が見られた。

(3) 抽出児の変容

- ・A君は、自分中心的なところがあり孤立児の位置にあるが、運動が大好きでチームの中心となって活躍することができ、感想でも「またみんなと楽しくやりたい」と書いていた。
- ・B君は、自分がチームの一員であることを自覚し、練習をしたりして自分なりにがんばっていた。
- ・C君は、キャプテンとしてチームをリードして役割を果たしていたが、メンバーの技術が不十分なためにボールパスがうまくつながらず、思うようにラリーが続かないので、試合が盛り上がらないことが表情の暗さにつながっていた。

(4) 授業仮説について

テスト結果を活用したグループ編成により、チームの友人関係に影響を及ぼすことが確認できた。役割分担で特にコーチ役の出番や活躍が見られなかったのは、担任の援助活動が不十分であったと思われる。そこで仮説の中に『役割分担』を加えることが望ましいと分かった。

VI 研究の成果と今後の課題

1 成果

- (1)学級経営についての理論や方法について理解を深めることで、教師の役割の重要性を再認した。
- (2)心理検査を活用した客観的な実態把握により、日常の行動観察や対話だけでは見えない部分の児童理解ができた。
- (3)授業実践では、子ども達の声を取り入れて教え合うような場の設定をすることで、よりよい友達関係につなげていけることが分かった。



〈感想の発表〉

2 課題

- (1)個の特性を生かしたグループ編成と授業の展開の仕方。
- (2)子ども達の実態に合った学級経営案の立て方と具体的な実践方法。
- (3)いじめ問題、登校拒否（不登校）問題等がますます深刻化している中で、心の通い合う学級経営のあり方について、今後も継続研究していきたい。

＜主な参考文献＞

前田嘉明 監修	『教師の心理』教師の意識と行動	有斐閣選書	1986年
成田國英 代表	『小学校学級経営ハンドブック』理論編	第一法規	1993年
教職研修総合特集	『学校の人間関係読本』No.77	教育開発研究所	1990年
藤岡信勝 編集	『授業づくりネットワーク』No.38	学事出版	1991年
教職研修臨時増刊号	『学級経営読本』No.9	教育開発研究所	1988年
有田和正 著	『新しい学級づくりの技術』	明治図書	1999年